

MPIの平日は朝の8時から活動が始まり、夕方は5時くらいになると殆どの方が帰られます。最初のころは郷に入りてはという事で、この時間に合わせていましたが、宿舎の工科大の寮に帰ってもやる事が無く、持参した文庫本も3日で読み終えてしまいました。結果、夕食を食べた後に再び研究所に行き、滞在最終週の国際学会に向けてのポスター制作などをし、日が沈み始める夜10時ころに帰り、16階の寮の自室から、暮れゆく空と街並みを眺めながらビールを飲む……というリズムを編み出すに至りました。やはり国民性なのか中国からの学生さんは夜10時

くらいでも見かけられ、妙な親近感とともに手を振りあったりしました。

今回の派遣では、訪問する先々でコーヒーカップをお土産に頂き、最終的に3個のコーヒーカップを携えての帰国になりました。現在そのコーヒーカップたちは、MPIのものは長野県のある村に住む父のもとに、放射光施設BESSY-IIのものは東京に住む兄のもとにあります。

この場を借りて、岡崎で参加している英会話コースのJeremiah Sechrist先生にお礼を述べたいと思います。このコースに参加していたおかげで、スタックすることもなく楽しく会話すること

ができましたし、コースで出てきた英会話のフレーズが大変役に立ちました。

分子研／総研大はこのように出会う“機会”というものが、量・質ともに優れているように感じます。研究者として見たときのみならず、大学院として見た時も、他に比べて魅力的な点が多いと思います。それは歴代のこのコラムを読み返してみても多くの方が触れられている通りです。私の今回の場合では英会話コース然り、この派遣事業然りです。このたびの海外学生派遣事業という得難きチャンスに巡り合えたことに感謝をし、次のチャンスも逃してなるものかと目を光らせていく所存で御座います。

E V E N T R E P O R T

学生報告 平成21年度後期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年 石山 仁大

10月8日から二日間に渡って総研大葉山本部にて入学式ならびに後学期学生セミナーが開催されました。今年度は初日に台風18号が接近した影響でセミナーの開催自体が危ぶまれましたが、新入生大半の参加の下で無事開催されました。

10月入学の新入生は過半数が外国人留学生であるため、セミナーは全て英語で行われました。これを敬遠したのか、日本人学生の参加率が低かった（新入生10名中3名のみが参加！）ことが残念でした。セミナーの主題は“Unity & Identity”であり、

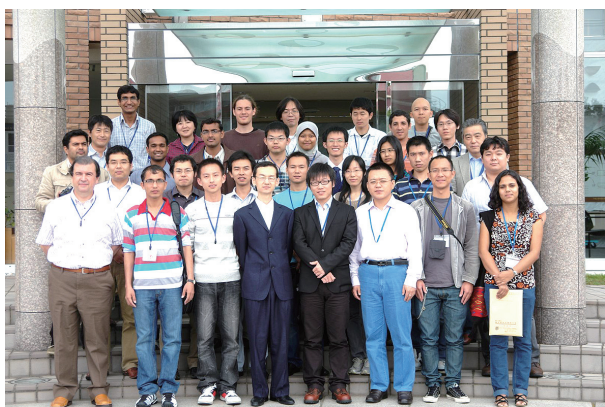
異文化・異分野交流を意識した内容でした。2名の外国人講師による講演および主題に関するフリーディスカッションが行われ、“Unity & Identity”について大いに考えさせられました。また、夕食懇談会および2つのアクティビティも催

され、留学生の人たちとの相互理解を深めることが出来ました。私自身は英語に不安があったために、セミナー開始当初はどうなることかと思っていましたが、いざとなれば言葉の壁はどうにでもなることが分かりました。今回のセミナーは自分自身について考える良い機会になったと思います。

最後になりましたが、今回のセミナーを企画・運営して下さった総研大の先輩方並びに先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

Norihiro Ishiyama

金沢大学自然科学研究科博士前期課程修了後、民間企業勤務、分子科学研究所研究生を経て、平成21年10月総合研究大学院大学物理科学研究科に編入。
分子スケールナノサイエンスセンター平本グループにて、有機薄膜太陽電池の研究に取り組む。豊橋市出身。



E V E N T R E P O R T

教員報告 アジア冬の学校

2009年度担当教員 物質分子科学研究領域 准教授 江 東林

総研大の特別教育研究経費によって、2009年12月1日（火）～4日（金）に岡崎コンファレンスセンターで「総研大アジア冬の学校」が開催された。総研大・物理科学研究科では、研究科内の5専攻で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学院生および若手研究者の育成に広く供するために、2004年度よりアジア冬の学校を開催してきた。分子研（構造分子科学専攻・機能分子科学専攻）での開催では、これまでの総計で310名を超え

る学生・若手研究者がアジア各国から参加してきている。

外国からの応募は63名あり21名を受け入れた。国籍別の内訳は、中国12名、タイ5名、韓国1名、インド1名、マレーシア1名である。国内からの参加者は12名、うち総研大生は9名、国籍は日本、中国、タイ、韓国等である。冬の学校では10件の講義、29件のポスター発表（外国からは21件、国内からは8件）があった。極端紫外光研究施設（UVSOR）や計算科学研究セ

ンター、920 MHz NMR装置などを中心に分子科学研究所を見学した。

開催より充分前からウェブページを通して、講義やポスターの概要と分子研全グループの最近の活動報告を参加者に伝えておいた。参加者が充分な予習をしていたためか、非常に活発な議論がなされ、かなり高度な質問が多かった。なお、プログラムの詳細は下記のとおりである。

2009 Sokendai Asian Winter School at IMS "Molecular Sciences – Central Role in Multidisciplinary Fields"

December 1

14:00-17:30 Registration
17:30 Reception

December 2

09:00-10:30 Prof. Kenji Ohmori "Exploring Quantum/Classical Boundary"
10:30-10:40 Coffee Break
10:40-12:10 Prof. Akiyoshi Hishikawa "Molecules Dressed with Light"
12:10-14:00 Lunch
14:00-15:30 Prof. Tsuneo Urisu "Development of the Neural Network Device"
15:30-15:40 Coffee Break
15:40-17:10 Prof. Hiroshi Fujii "Molecular Mechanism of Metalloenzymes"
17:30-20:00 Poster Presentations

December 3

09:00-10:30 Prof. Kyuya Yakushi "Electronic state of molecular conductors studied by infrared and Raman spectroscopy"
10:30-10:40 Coffee Break
10:40-12:10 Prof. Masahiro Katoh "Basics of Synchrotron Radiation and Free Electron Laser"
12:10-14:00 Lunch
14:00-15:30 Prof. Masahiro Hiramoto "Organic Thin-film Solar Cells"
15:30-15:40 Coffee Break
15:40-17:10 Prof. Toshiyasu Suzuki "Organic Semiconductors for Plastic Electronics"
17:30-20:00 Banquet

December 4

09:00-10:30 Prof. Hidehiro Sakurai "Chemistry of Buckybowls: Bowl-Shaped π -Aromatic Compounds"
10:30-10:40 Coffee Break
10:40-12:10 Prof. Toshi Nagata "How to Capture Solar Energy—Molecular Aspects of Photosynthesis"
Afternoon of December 4: Lab Tour and Free Time

December 5 Departure



E V E N T R E P O R T

教員報告 第6回夏の体験入学

2009年度担当教員 理論・計算分子科学研究領域 准教授 柳井 毅

総研大の広報事業の一環として、第6回分子研夏の体験入学が開催されました。この事業は、全国の大学生・大学院修士課程の学生を対象に、分子研での研究活動や教育活動を実際に体験し、研究所を基盤とする大学院の特色を知ってもらうことを趣旨としています。今年は、7月28～31日の4日間で開催され、9名の参加がありました。参加学生の内訳は、以下の通りです。学部3年生：4名、学部4年生：2名、修士1年生：1名、修士2年生：2名。今回は、開催の日程が7月下旬に設定され、例年より1、2週間早めだったこと、また新型インフルエンザの流行の影響を受けて他大学の代講と重なるなどの理由で、本年度は少人数による催しとなりました。開催期間での参加が難しい学生4名は、別日取りで希望研究室で体験入学を行いました。

体験入学の初日は、UVSORならびに計算科学研究センターの見学ののち、合同のオリエンテーションでは、受け入れ研究室による体験研究の紹介が合同で行われた。翌日から2日間、参加

学生は各研究室に訪問し、実際の体験研究に取り組みました。体験のテーマは次の通りです。「光合成モデル化合物の合成」「有機EL素子の作製と発光測定」「緑色蛍光蛋白質の巻き戻りを調べてみよう」「NMRを用いてタンパク質のかたちと動きを実感する」「『スピン転移物質の合成』に関する体験入学プログラム」「クラスター触媒を用いた反応の一例を体験」「金属タンパク質を対象とした研究を体験して

みよう」。最終日に全ての参加者による体験内容の報告会を行いました。

本事業の実施にあたり、総研大関係者、大学院担当事務、またご多忙にもかかわらず快く学生を受け入れていただいた研究室の皆様、その他関係者の方々に多大なご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。この事業は、総研大特定教育研究経費（教育）の新入生確保のための広報的の一環で行われました。



学生報告 夏の体験入学に参加して

岐阜大学工学部生命工学科 学部4年 田中 朝子



1日目はガイダンスの後、体験入学を受け入れている研究室および施設内の見学をさせていただきました。放射光施設や大規模なスーパーコンピュータも見学できました。研究員一人当たりのスペースに余裕があったと思います。

2日目と3日目は実験を行いました。体験入学では桑島先生の研究室にお世話になり、緑色タンパク質の巻き戻り実験を体験しました。まず、酸性により緑色タンパク質が消色した後中和させて再び発色する様子を観察しました。次に、蛍光分光光度計で酸性の後にタンパク質が巻き戻る速度について解析しました。酸性にさせる時間が短いほど巻き戻る速度は大きくなるはずでしたが、一部あまりいい結果ではありませんでした。3日目には実験終了後にタンパク質の巻き戻りについて

の講義がありました。

4日目には、2日間の実験内容を各自スライドなどで発表しました。私はスライドに載せる画像を研究室のデータからいただきました。スライド発表では自分の学んできたこととは異なる分野を知るきっかけになると思います。

体験入学の期間中に懇親会が開かれるので、様々な大学の方とお話できるよい機会だと思いました。短い間でしたが、お世話になった研究室の方々や親切にしてくださった方々に心から感謝いたします。